

ながわ

那珂川町郷土史研究会

探訪 83

裂田溝 10

裂田溝取水口(唐戸)より下流

一の井堰より取水された水は、200m下流の橋までは、ほぼ直線距離を音もなく流れていきます。この区間は昭和48年の脊振ダム補償工事として「唐戸改修砂通しの新設、下流約200m両面擁壁改修護岸工事」が行われたと記録に残っています。この区間は右岸は石積みを摸したコンクリート壁で

朝起きると、まず最初に飲み水を汲みあげるのが、女性の大事な仕事でした。雨が降りそうになると、どこの家庭も大がめを二つ位備えていたので、それになつぷり水を汲みあげていました。水辺には屋敷神が祭られ、汚い物を流すと近所でおしで戒めあつて、水を汚さないように心がけていました。ある方は「山田は、七代善根を積まなければ嫁には行けない所と聞かさ

高さは約4m、左岸は2mくらいの三面側溝です。溝ぎりぎりまで、家が迫って建っています。それぞれの家には裏庭から溝に降りる石段があり、その先には「汲ん場」と呼ばれる洗い場があります。溝の水は、農業用水だけでなく鍋や野菜などを洗ったり、生活用水としても利用されていました。古老の話によると「裂田溝を流れる豊富な水のおかげで、山田には井戸を持つている家は軒かしかなかった」ということです。



7. 汲ん場 - 二



6. 汲ん場 - 八

- コースメモ
- 5. 汲ん場 - 口
 - 6. 汲ん場 - 八
 - 7. 汲ん場 - 二
 - 8. 汲ん場 - ホ
 - 9. 橋 - 1
 - 10. 水口
 - 次号へ
 - 11. 汲ん場 - へ



年に一度川掃除が行われています。水路は堀を思わせる高さの壁に囲まれ四季おりおりの草花が両岸を彩ります。

水藪の満々として
流れ行く
古人の築きし
裂田溝
節子

れて嫁いできました。また。溝のおかげで、水の苦勞を知らない生活を送ることができました」と話しておられます。橋①は別所と茶場を結ぶ通りで、溝に架かる最初の橋です。橋げたの側に、西側のたんぼの取水口となる水口があります。唐戸からこの橋までの短い区間に5カ所の汲ん場がありますが、それぞれ異なる形で昔ながらの水辺のなごりを残しています。次号は、更に幾つかの「汲ん場」と農業用のための小井堰などを紹介いたします。

※善根を積む 良い報いを受ける 行いをする



9. 橋 - 1



10. 水口



8. 汲ん場 - ホ



5. 汲ん場 - 口